元禄10年 万多羅寺村年貢皆済目録(1697年)

(史料出所：尼崎市『尼崎市史』第5巻pp.622-623)
(原文には、漢数字が使用されているが、アラビア数字で表記する。また、ふりがなは原文にはないが読解を助けるために倉橋が付けた。
なお、原文は縦書き。)

元禄十^{うし}年御年貢皆済目録

一 高301石2斗2升2合
此取^{このとり}米152石4斗4升5合
外^{ほかに}二
米3石6斗1升1合5夕^{せき}
銀45^{もんめ}匁1分8厘
納合 米156石5升6合5夕
銀45匁1分8厘
右内訳
大豆^{だいず}15石2斗4升5合
此銀^{かん}1貫50匁9分1厘
米50石8斗1升5合
此銀3貫658匁6分8厘
米86石3斗8升6合
米3石6斗1升1合5夕
此銀260目3厘
銀45匁1分8厘
納合 米86石3斗8升6合
銀5貫15匁8分
外^{ほかに}二

万多羅寺村
高二5つ6厘^{りん}1毛^{もう}内
夫米^{ぶまい}
御蔵前^{おくらまえ}入用

10分1銀納
但、石^{こく}二付69匁かへ
3分1銀納
但、石二 72匁かへ
大坂 冬 春^{おくらづめ} 御蔵詰
夫米銀納
但、石二付72匁かへ
御蔵前入用

一 米4石5斗7升4合

御口米^{おくちまい}
但、取石^{あて}二付 3升宛

右之^{みぎのとおり}通去^{きさるうしどし}丑年御年貢皆済御勘定仕上^{ごかんじょうつかまつりもうしあげそうろう}申^{もし}候、若相違^{ござそうらえ}之義御座候八、仕直^{しなお}し
差上^{さしあげ}ケ可^{もうすべく}申^{そうろう}候、以(上)

元禄11年 寅^{とら}12月

摂州川辺郡万多羅寺村庄屋
与一兵衛[㊦]
同村年寄
甚兵衛[㊦]
同断
又兵衛[㊦]

如前書丑年分御物成銀米御勘定仕上候二付、為後日覚目録令奥判遣之候、若相違之儀候歟又は百姓申分於有之は此勘定可為反故候、以上

寅
12月 辻弥五左衛門[㊦]
庄屋
年寄
惣百姓

史料解読のための参考(単位換算)

田畑の面積の単位 1町 = 10反 = 100畝 = 3000歩(坪)
穀物(容積)の単位 1石 = 10斗 = 100升 = 1000合
通貨(金と銀) 金1両 = 銀50匁(元禄13年まで、以後60匁) = 銀4分
重さの単位 1貫 = 1000匁(目) = 10000分